

■再整備の背景

東遊園地の歴史

■日本における公園のはじまり

●日本における公園の歴史に関すること ●神戸・東遊園地に関すること

1866 (慶応2年)	●初めて公園の概念を持った言葉が現れるのは、「横浜居留地改造及競馬場墓地等約書」。この条約では「遊園」(public garden)を設け、外国人と日本人の共用とすること、租税は取り立てないことが規定されている。
1867 (慶応3年)	●外国人居留地が定められる「兵庫港並大阪に於て外国人居留地を定むる取極」
1868 (明治元年)	●外国人居留地の土地の競売が開始。居留地条約「大阪兵庫外国人居留地約定書」では公園に関する規定は何もないが、後の東遊園地が公園として利用されていた記録が残っている。

■東遊園地のなりたち

1869 (明治2年)	●東遊園地の開設にあたって紛糾が生じ始める。
1870 (明治3年)	●海岸遊園の設置 (居留地に出来た3つの公園のひとつ) ●神戸外国人居留地の設計を行ったJ.W.ハートの図面では、海岸遊園はPromenade、東遊園地はReserved For Recreation Groundと書かれている。 ●KR&AC設立 ●横浜/山手公園の設置
1871 (明治4年)	●生田川の付け替え工事 ●西公園の設置 (居留地に出来た3つの公園のひとつ) J.W.ハートの図面ではPublic Ground
1872 (明治5年)	●東遊園地の敷地が国から居留外国人に貸与されることで紛糾が収束 ●J.W.ハートの図面で東遊園地の表記がForeign Recreation Groundとされる
1873 (明治6年)	●公園開設の太政官布告
1875 (明治8年)	●各国公使と日本側の協議が成立、「神戸外国人居留地内に公園取捨議定書」を締結。「内外人遊園地」として正式な公園に。総坪数：約9467坪(3.13ha)、造成・管理運営は居留地会議(各国領事・兵庫県知事・3名の住民代表)が行う。費用も居留地会議が負担、内外人の「共遊」、居留地会議には地租等の支払い義務なし
1876 (明治9年)	●横浜/横浜公園の設置

■東遊園地の利用の歴史

1883 (明治16年)	●居留地住民が、隣接する道路が広すぎるとして、公園に編入することを要望。協定の成立により、東遊園地が拡張された。(3.69haに)
1899 (明治32年)	●外国人居留地の返還(条約改正による)、居留地の3公園も神戸市の管理下になったが、外国人による公園の使用権を維持。 ●「加納町遊園地・海岸通り遊園地取締規定」を制定し、公園利用の調整を行った。
1900 (明治33年)	●遊園地保護委員の設置(風致の維持、外国人と日本人の利用の共生を図る)
1922 (大正11年)	●「東遊園地」に改称
1927 (昭和2年)	●毎週土曜日は外国人専用、日曜日は日本人専用、その他の日は出願順、などの調整が行われていた
1942 (昭和17年)	●太平洋戦争中、防空用軍用地として利用
1945 (昭和20年)	●進駐軍による接收、1952(昭和27年)まで
1957 (昭和32年)	●神戸市役所完成
1995 (平成7年)	●阪神淡路大震災以降、ルミナリエや1.17のつどいが開催されている
2011 (平成23年)	●国の登録記念物(名勝地関係)として登録

リノベーションプランの必要性

(1) 施策の中での位置づけ

①神戸2020ビジョン

2020年に向けた実行計画。人口減少の克服とともに、まちの質や暮らしの質を高めて行くための取組提示
【テーマ】若者に選ばれるまち・誰もが活躍するまち

②神戸創生戦略(第2版)(平成28年3月)

【全体目標】年間12,000人の出生数維持
・若者の神戸市への転入増、東京圏への転出超過年間2,500人を解消

③神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン](平成27年9月)

【コンセプト】日々の刺激と物語が生まれる 美しき港町・神戸～多文化・多世代交流 あなたが参加しているまち～
【都心の将来像を表現する3つの柱】

①心地良いデザイン ②出会い、イノベーション、そして文化 ③しなやかで強いインフラ

④三宮周辺地区の『再整備基本計画』(平成27年9月)

【目指すべき将来像】美しき港町・神戸の玄関口“三宮”
①「えき～まち空間」神戸の象徴となる新しい駅前空間
②「えき～まち空間」を中心とした地区全体の魅力向上

⑤港都グランドデザイン(平成23年3月)

【めざす姿の全体将来像】デザイン都市・神戸を具現化するリーディングエリア「港都神戸」の創生

(2) 新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園のあり方

■新たな時代をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方

緑とオープンスペースの多機能性の再認識と都市の特性に応じた発揮社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、都市基盤も一定程度整備されたステージにおいて、緑とオープンスペース政策は、緑とオープンスペースが持つ多機能性を都市のため、地域のため、市民のために発揮すべく、そのポテンシャルを最大限発揮させるための政策へ移行すべき

■新たなステージで重視すべき観点

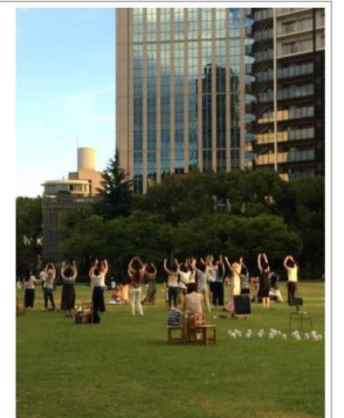
①ストック効果をより高める ②民との連携を加速する ③都市公園を一層柔軟に使いこなす

■新たなステージに向けた重点的な戦略

(ア) みどりとオープンスペースによる都市のリノベーションの推進
(イ) より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメント強化
(ウ) 民との効果的な連携のための仕組みの充実

(3) 施設更新・課題解決の必要性

- ①歴史：日本で最も古い西洋風公園のひとつとしてアイデンティティー不足
・旧居留地との関係性が希薄・利用者に歴史を伝えられていない
- ②都心：都心の好立地を有効活用できていない・都心らしい賑わいや活気がない
- ③回遊：公園とまちの一体感・フラワーロードとの連続性欠如、公園の南北が分断
- ④景観・空間：神戸らしい魅力の欠如・細分化した閉鎖的な空間
- ⑤施設：施設の老朽化・モニュメント(彫刻、顕彰碑、句碑等)の混雑
- ⑥花みどり：常緑樹主体で季節感が乏しい
- ⑦利用：大規模イベント以外は利用が少ない
※社会実験では、多様な市民プログラムにより賑わいが生まれた
- ⑧安全：見通しが悪く死角が多い

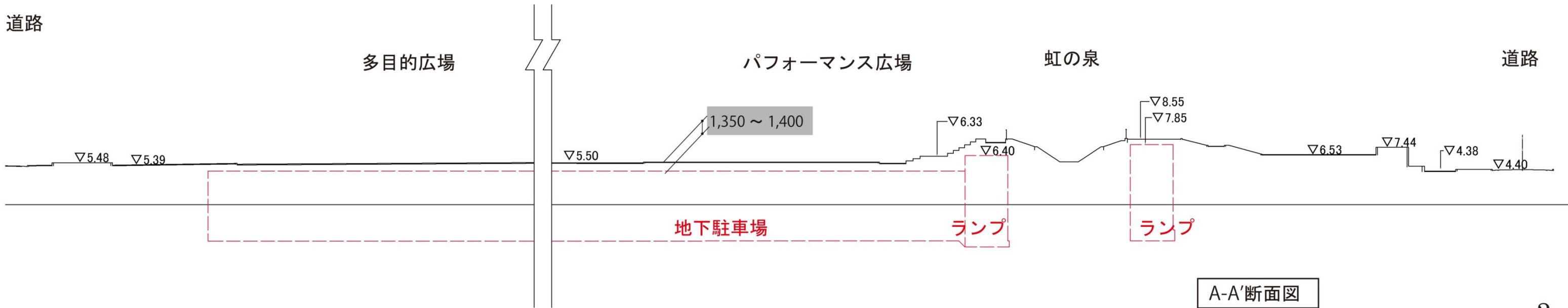


<p>①歴史</p>	<p>【居留地と公園の歴史】</p> <p>□東遊園地は、居留地に住む外国人の求めでつくられた日本で最も古い公園のひとつとして利用されている。</p> <p>□東遊園地は、外国人によって神戸にスポーツ・レクリエーションが展開された場。彼らの社会貢献活動を今に伝える歴史的な場所。</p> <p>□外国人と日本人の間で調整をしながら利用されてきた大正時代を経て、戦後改修を重ね、神戸の中心の公園として多くの市民に利用され続けてきた。</p>	 <p>明治後期～大正期の東遊園地</p>	<p>⑤施設</p>	<p>【建築】</p> <p>□レストランや管理事務所は、旧居留地時代の建物を模した外観で、神戸らしい景観を形成している。</p> <p>■レストラン周辺の植栽によって、店の賑わいが伝わりづらい。</p> <p>【モニュメント】</p> <p>□「花とみどりの彫刻」は彫刻をまちづくりに取り入れる主旨で、1960年代後半から整備された。</p> <p>□震災や歴史関連のモニュメントが多く設置されている。</p> <p>■阪神・淡路大震災慰霊と復興のモニュメントは公園の主要施設だが入口からの動線が複雑で分かりづらい。</p> <p>■モニュメントが混在しており、歴史上の意義を伝えられていない。</p> <p>■「大噴水」は大きな面積を占めているが、利用者が少ない。</p> <p>【占用施設】</p> <p>□大きなものとして、地下駐車場(約1,100㎡)とその付帯施設。</p>	 <p>レストラン、管理事務所</p>
<p>②都心</p>	<p>【核となる空間】</p> <p>□都心の核となる貴重なオープンスペース</p> <p>□フラワーロード沿いは、高質な植栽管理が行われており、花のまちのイメージを演出している。</p> <p>■旧居留地側の入口が、フラワーロード側に比べて演出が乏しく、殺風景。</p> <p>【人の流れ】</p> <p>■フラワーロードの人が市役所以南に流れない。</p> <p>■国道2号線横断の歩道橋が非常に長い。陸橋が、ウォーターフロントから公園への見通しを阻害している。</p>	 <p>フラワーロード</p>	<p>⑥花みどり</p>	<p>【全体】</p> <p>■樹木が立派に成長しているが、常緑樹が多く季節感に乏しい。</p> <p>【旧居留地側外周植栽帯】</p> <p>□高木(クスノキ)が成長し、旧居留地側からみどりのアイストップとなり、公園利用者に緑陰を提供している。</p> <p>【東側の植栽帯】</p> <p>□メタセコイアやラクウショウの植栽帯が、特色ある景観を呈し、利用者に緑陰を提供している。</p> <p>□Farmers Marketの会場として活用されている。</p> <p>【フラワーロード側植栽帯】</p> <p>■植栽帯により公園とフラワーロードが分断している</p>	 <p>噴水</p>
<p>③回遊</p>	<p>【園路】</p> <p>□フラワーロード沿いは、水路や彫刻、花壇などにより、楽しみながら歩けるプロムナードとなっている。</p> <p>■フラワーロードの歩道は、水路等により屈曲があり、歩きにくい部分がある。</p> <p>■東側広場エリアは園路が分節され、動線の連続性がない。</p> <p>■公園が、旧居留地からフラワーロードへの通過動線となっている。通過動線上にバリアが多い。</p> <p>■北と南を道路(葺合南58号線)が横断していて連続性と一体感がない。</p>	 <p>園路</p>	<p>⑦利用</p>	<p>【イベント】</p> <p>□阪神・淡路大震災犠牲者の慰霊と鎮魂の意を込めた「ルミナリエ」「1.17の集い」が開催されている。</p> <p>・ルミナリエ(毎年12月 来場者数:3,256,000名/10日間 2015年度)</p> <p>・1.17の集い(毎年1月 記帳者数:約21,100人/2016年度)</p> <p>□「神戸まつり」「神戸マラソン」等のイベントが開催されている</p> <p>【日常利用】</p> <p>■都心の利便性良い立地だが、平日の利用者が少ない。</p> <p>【社会実験】</p> <p>□にぎわい創出に向け、芝生広場を活用した、公園の魅力を高めるプログラムが実施されている。</p>	 <p>フラワーロード側植栽帯</p>
<p>④景観空間</p>	<p>【景観】</p> <p>□フラワーロードは、四季折々の草花や花灌木と彫刻が調和する美しい景観を呈し、市民に親しまれている。</p> <p>□慰霊と復興のモニュメントと市庁舎1号館を結ぶビスタ軸が特色ある景観を形成している。</p> <p>□市役所1号館は、公園への眺望点。(ルミナリエ等)</p> <p>■居留地側の高い擁壁や街角が殺風景。</p> <p>【空間】</p> <p>■公園の北側と南側、フラワーロードと公園が分断した空間となっている。</p> <p>■北側は、空間が細分化しており閉鎖的な空間が多い。</p> <p>□緑陰を活用した賑わい空間が生れている。(FarmersMarket)</p>	 <p>フラワーロードの花壇</p>	<p>⑧安全</p>	<p>【阪神・淡路大震災】</p> <p>□阪神・淡路大震災を伝えるためのモニュメントや施設がある</p> <p>【防災】</p> <p>□東遊園地:緊急避難場所(地震・津波・大火事)</p> <p>【防犯】</p> <p>■フラワーロード側から公園内部への見通しが悪い</p> <p>■死角が多い(北側、フラワーロード等)</p> <p>■南側園地内で見通しが悪い所がある(植栽帯などによるもの)</p>	 <p>「1.17の集い」</p>
		 <p>慰霊と復興のモニュメント</p>			 <p>社会実験</p>
		 <p>見通しが悪い空間</p>			 <p>見通しが悪い空間</p>

■構造的な前提条件の提示

■構造的な前提条件

- ①地下駐車場は、現況のままとする。
 - ・地下駐車場のランプ上部にあたるため、「虹の泉」周辺は高低差が生じているが変えることはできない。
 - ・地下駐車場の出入口通風口も現況のままとする。
- ②「慰霊と復興のモニュメント」は現況のままとする。



現況の東遊園地の地形（旧居留地側から公園を望む）

